

グランドデザイン実践ワークショップ

創造力で幸福な大分をめざそう

～「グランドデザインおおいた2050」は実践のステージへ～

2026年3月16日

大分経済同友会 調査部長
三浦 宏樹

クリエイティブ大分委員会の活動と成果

2008～2012年度（クリエイティブ大分の前身の産業委員会・地域委員会の時代）

2008年7月 【一般行事】第1回「県都大分のまちづくりビジョン」フォーラム（一般市民を含めて約300人が参加）

2010年2月 【一般行事】第2回「県都大分のまちづくりビジョン」フォーラム（約400人が参加、合意形成ツールとして大分市街地をCGでリアルに再現したVRを活用）

2010年8月 【提言】県都大分の交通体系について

2010年9月 【視察】瀬戸内国際芸術祭2010（以降、3年に一度視察して定点観測を実施）

2010年11月 【講演】富山市長 森雅志「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」（担当例会）

2011年1月 【提言】県立美術館整備の方向性 ～クリエイティブな美術館&都市づくりに向けて～

2011年2月 【講演】ニッセイ基礎研究所 吉本光宏「アートが牽引する創造都市の可能性」

2011年7月 【視察】フランス・ドイツの創造都市と交通まちづくり（エッセン、ナント、ストラスブールなど）

2011年9月 【提言】県立美術館整備の方向性Ⅱ ～創造都市実現のための処方箋～

2012年4月 【視察】スペイン・フランスの創造都市と交通まちづくり（ビルバオ、サン・セバスティアン、ナント、メスなど）

2012年8月 【提言】大分都心南北軸整備の方向性について ～アートと交通のまちづくりに向けて～

- **方向：** 県都大分の都市構造の再構築（都心南北軸整備）にあわせて、新県立美術館のまちなか立地、ソフト面での活性化策として創造都市を提言
- **成果：** 2015 大分県立美術館、JRおおいたシティ開業、おんせん県おおいたデスティネーションキャンペーン開催

クリエイティブ大分委員会の活動と成果

2008～2012年度（クリエイティブ大分の前身の産業委員会・地域委員会の時代）



ナント市は、旧工場地帯をクリエイティブ産業の集積地へコンバージョン。広場では「巨象」が観光客を乗せてのし歩く



VRを用いて、中央通りにLRT(次世代型路面電車)を走らせてみる



坂茂設計の「大分県立美術館(OPAM)」が2015年4月に大分市都心部にオープン



アートで衰退都市を再生した「ビルバオ・グッゲンハイム美術館」



VRを用いて、府内中央口駅前広場に巨大アートを設置してみる 2



OPAMとほぼ同時に水戸岡鋭治デザインの「JRおおいたシティ」も開業し、destinationキャンペーンを迎えた

クリエイティブ大分委員会の活動と成果

2013～2015年度 (クリエイティブ大分の前身の地域委員会の時代)

2013年6月 【視察】スペイン・フランスの創造都市(バルセロナ、「欧州文化首都」開催中のマルセイユなど)

2014年4月 【提言】クリエイティブ大分を目指して ～長期ビジョンと、2015年に向けた戦略の必要性～

2015年5月 【視察】イギリス・フランスの創造都市(ロンドンで、クリエイティブ産業とロンドン五輪のレガシーを調査、美術館誘致で都市再生を実現したマーゲイトや、ランス、リールを視察)

2015年7月 【提言】芸術文化の創造性を活かした地方創生大分モデルの提言

- **方向:** 県全域を創造都市・農村の集合体とすることで地方創生を実現(クリエイティブ産業の育成、アート観光の推進、大分市・別府市のユネスコ創造都市ネットワーク加盟、東アジア文化都市の広域開催を提言)
- **成果:** 2016 クリエイティブ産業の創出を目指す「CREATIVE PLATFORM OITA」開始、2018 国民文化祭/全国障害者芸術・文化祭開催(カルチャーツーリズム推進)、2022 県単位として初の東アジア文化都市開催



東ロンドンのクリエイティブ・ハブの一つ
「トランペリー・オールド・ストリート」



GALLERIA MIDO BARU (ガレリア御堂原)
CREATIVE PLATFORM OITAのクリエイティブ
相談室を活用して建設されたアートホテル



世界的彫刻家アニッシュ・カプーアの代表作「Sky Mirror」が国民文化祭に合わせて別府公園にお目見え(アニッシュ・カプーア IN 別府)

クリエイティブ大分委員会の活動と成果

2016～2019年度

2016年5月 【講演】三菱UFJリサーチ&コンサルティング 太下義之「クリエイティブ産業の創出に向けて」(担当例会)

2016年9月 【視察】鶴岡市(わが国のユネスコ食文化創造都市第1号)、山形市(芸術祭「山形ビエンナーレ」)

2017年2月 【提言】食文化とアートを活かした市民と産業の成長戦略 ～未来創造都市の実現に向けて～

2017年4-5月【視察】スペイン・イタリア・フランスの創造都市(バルセロナ、ユネスコ食文化創造都市パルマなど)

2018年5月 【提言】2020年以降のレガシーに向けて ～祝祭都市の未来をデザインする～

2018年9月 【一般行事】市民フォーラム2018～市民みんなでラグビーワールドカップを楽しもう(市民参加イベント)

2018年12月 【提言】大分県版クリエイティブ産業のさらなる振興に向けて ～感性価値を活かした競争力ある企業づくり～

2019年4-5月【視察】スペイン・フランスの創造都市(四年制料理大学「バスク・クリナリー・センター」など)

- **方向:** 創造都市の裾野拡大を図るうえで食文化に着目、ラグビーワールドカップ(RWC)を契機としたビジョンを
- **成果:** 2019 RWCにあわせアートイベント開催、2021 臼杵市が食文化分野でユネスコ創造都市ネットワーク加盟



佐藤樹一郎大分市長らをパネリストに招いてiichikoアトリウムプラザで「市民フォーラム」を開催



大分市はRWCに合わせて芸術祭「回遊劇場 SPIRAL」を開催。大分合同新聞社の旧輪転機室をメイン会場として活用。写真は曾谷朝江「宙」



別府市はRWCに合わせて芸術祭「in BEPPU」を開催。写真は、トキハ別府店に設けられた関口光太郎「混浴に参加するよう世界を導く 自由な薬師如来」

クリエイティブ大分委員会の活動と成果

2020～2021年度

2020年7月 【講演】日本総合研究所 藻谷浩介「新型コロナ感染はどうか～世界と日本のファクトを押さえる」(リモート講演)、「新型コロナ後の大分・九州の進む道」(担当例会)

2020年10月【提言】アフターコロナをみすえた大分県観光の再生に向けて ～2025年の『NEW OITA!』を展望する～

2020-2021年 臼杵市のユネスコ創造都市ネットワークの食文化分野での加盟を、大分県中部振興局と連携して支援

- **方向:** コロナ禍によるリセットを受け、中長期ビジョンの必要性を指摘し、カルチャー&テックツーリズムの推進、2024年のJRデスティネーションキャンペーン(DC)の再誘致などを提言
- **成果:** 2021 臼杵市がユネスコ創造都市ネットワークに加盟、2022 東アジア文化都市2022大分県、2024 福岡・大分デスティネーションキャンペーン



臼杵食文化創造都市を支えるインフラ、「土づくりセンター」草木類を主原料として、自然の土に近い完熟堆肥を生産している



東アジア文化都市2022大分県のコア事業、塩田千春展『巡る記憶』閉店した別府の中華料理店などを会場に展開



DCのツアーの一環として、臼杵石仏の里で開催された、風景と食設計室ホーによる食事と朗読の公演『石が土になる間に』

クリエイティブ大分委員会の活動と成果

2022～2023年度 []内は参加者数

2022年度

【会員行事】 OPAM社交パーティー(大分県立美術館のユニークベニューとしての活用を実践) [49]

【講演】 武蔵野美術大学教授 若杉浩一「新しい価値のデザインと未来、そして地域」(担当例会) [96]

【県内視察】 別府 [19]、大分 [7]

【県外視察】 瀬戸内国際芸術祭 [17]

2023年度

【提言】 [創造立県の継承と発展に向けて](#)

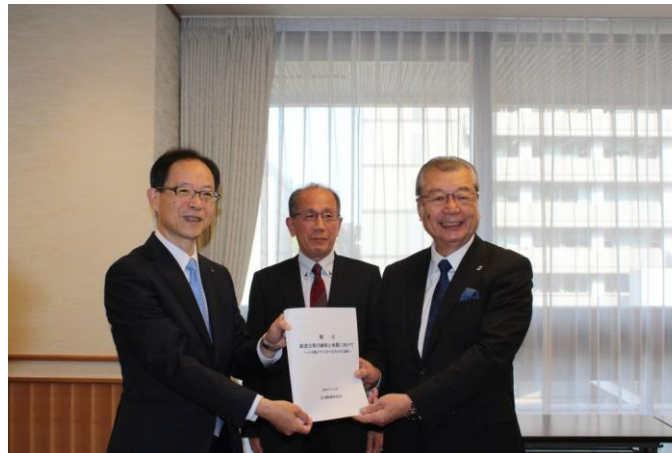
【講演】 万博協会 畑田健「万博概要と地方誘客の取組みの最新動向」(担当例会) [96]、宇宙ビジネス [47]

【県内視察】 別府(愛媛経済同友会との交流) [17]

【県外視察】 奈良・三重ガストロノミー [11]



大分県立美術館OPAMのアトリウムで社交パーティーを開催



「創造立県の継承と発展に向けて」の提言を大分県知事に提出



食のテーマパーク「VISON」(三重県多気町)を視察

クリエイティブ大分委員会の活動と成果

4年間で延べ約400人（担当例会を含めて約800人）が参加

2024～2025年度 []内は参加者数

2024年度

- 【会員行事】 大分のグランドデザインを考えるワークショップ [29]
- 【講演】 国東市長 松井督治「新しい国東市の創造～六郷満山・アート・宇宙港をキーワードにしたまちづくり～」(担当例会)[115]、宇宙ビジネス[74]
- 【県内視察】 佐伯・臼杵(福岡・大分デスティネーションキャンペーン参加)[9]、別府[11]
- 【海外視察】 ポルトガル(ユネスコ創造都市ネットワーク年次総会開催地視察)[15]

2025年度

- 【会員行事】 グランドデザイン実践ワークショップ[38]
- 【講演】 大林組会長 大林剛郎「文化のカー都市と文化、科学と文化ー」(担当例会)[104]
- 【県内視察】 別府[10]、大分[15]、国東半島芸術文化祭2025[12]
- 【県外視察】 大阪・関西万博[15]、瀬戸内国際芸術祭2025[15]



ポルトガル ブラガ市の市長を表敬訪問、創造都市について意見交換



「グランドデザインを考えるワークショップ」を大分銀行赤レンガ館で開催



瀬戸内国際芸術祭2025視察 四国ツーリズム創造機構 半井真司代表理事(JR四国相談役)が講演



国東半島芸術文化祭2025は51日間で7.6万人が来場。巨大アヒル「ラバーダック」が大人気

グランドデザインおおいた2050

基本理念と全体構成

【基本理念】 かしこく縮みながら、大胆に世界へとひらいていく

人口減少が続くなかでも、人々が自然なかたちでつながりながら暮らしていけるように、地域コミュニティを再生していく(=かしこく縮む)ことがたいせつです。それと同時に、決して内向きに引きこもることなく、世界の多様な文化を受容して交流を重ねながら、大分ならではの独自の魅力を発見し、磨き、積極的に発信していく(=大胆に世界へとひらいていく)姿勢も必要です。世界中の人やモノ、知恵が行きかう交差点になることが、大分の未来です。

こうした未来を実現するには、人口減少をはじめ、環境問題や災害といったリスクにしっかりと対処・適応するとともに、国内外との広域連携を視野に入れて、経済・社会基盤の維持と発展を図らなければいけません。そのうえでめざすべき姿は、県民一人ひとりが自らの創造力を発揮して、大分の魅力をともに高め、経済・社会・文化的な豊かさ・幸福を皆で分かちあうことです。

【全体構成】

1. 大分が続いていくためにたいせつなこと

(1)人口が減っても人々が生活・交流できる星座型の地域をつくろう

(2)地元で使うエネルギーと食料は自給をめざそう

(3)災害につよい社会を築こう

2. 大分の豊かさを育む苗床をつくろう

(1)地域をささえる産業を育てよう

(2)人と地域が中心となる観光を生み出そう

(3)大分県を瀬戸内・九州交流圏の結節点に育てよう

3. 創造力で幸福な大分をめざそう

(1)あそびココロと創造力でまちの魅力を高めよう

(2)幸福度ナンバーワンの地域をつくろう

クリエイティブと
特に関係が深い分野

グランドデザインとクリエイティブ大分委員会

1. (2) 地元で使うエネルギーと食料は自給をめざそう

大分県は再生可能エネルギーの先進県です。各地の特性に応じて、地熱・水力などを活用して、地域コミュニティごとにエネルギーマネジメントをおこない、地域内でエネルギーの自給をめざしましょう。臨海工業地帯では、水素などを活用してカーボンニュートラル(脱炭素化)を進め、県全体として循環型社会を実現しましょう。

食料自給率の向上も急務です。また、有機農業や地産地消の取り組みを発展させて、「有機の大分」として世界にも発信しましょう。持続可能なガストロノミー(食文化)がユネスコに認められた臼杵市のように、食文化創造都市を県内全域に広げて、地域ごとに誇れる独自の食文化を根づかせましょう。



食文化創造都市

臼杵

CITY OF
GASTRONOMY

「食文化創造都市 臼杵」公式ロゴマーク
(出典) 臼杵食文化創造都市推進協議会公式サイト



ギネス世界記録に認定されているフンドーキン醤油の世界一大きな醸造用木樽



臼杵の郷土料理「黄飯かやく」

グランドデザインとクリエイティブ大分委員会

3. (1) あそびココロと創造力でまちの魅力を高めよう

大分県の人口減少スピードをやわらげるには、若者(特に女性)が大分を離れず定着することや、一度は大分を離れても再び戻ってくるのが大事であり、そのためには、若い世代の人たちがやりがいを持って働ける仕事の間とともに、生活面での魅力(楽しい・おいしい・おしゃれ)も欠かせません。また、AIが進化を続けるなかで、社会が求める能力は、記憶力や知識量から、創造性や柔軟性、課題発見・解決力へと急速な変化を遂げつつあります。そこでは、あそびココロを持ち、自由な発想を楽しみ、探求心を働かせて未来を形づくる力の価値が高まることでしょう。

そうした創造性を養うには、何者であろうとオープンに招き入れるような、地域の気風がたいせつで、旅人や移住者をねんごろにする(親しく交流する)温泉や、神仏習合の文化が息づく大分は、まさに適地といえます。県内外の教育機関とも連携して、異文化を理解し受容する寛容性や、起業家精神をそなえたグローバル人材の育成・定着を図りましょう。そして、大分に定住はしていないが第二のふるさととして愛するファン層(関係人口・交流人口)を大切にして、私たち住民とさまざまなかたちで交流しながら、たがいに学びあうことができるような場所を各地につくりましょう。こうした地域づくりによって、将来は県内すべての地域が、「創造都市」「創造農村」と呼ばれるようになることをめざしましょう。

グランドデザインとクリエイティブ大分委員会

3. (2)幸福度ナンバーワンの地域をつくろう

大分県は「豊の国」といわれるように、昔から豊かな地域でした。その背景には、大地に降りそそいだ雨が長い時間をかけて温泉に変わる「循環性」、大友宗麟時代に南蛮文化を先進的に受け容れた「創造性」、江戸時代の小藩分立でつちかわれた文化的な「多様性」があります。これらの特色をさらに伸ばすことで、県民の幸福度がナンバーワンとなる社会を実現するとともに、そのすばらしさを世界中の人々と分かちあいましょう。

こうした幸福度は、近年「ウェルビーイング」(心身ともに元気で社会との関係も良好な状態)と呼ばれ、世界的にも共通する価値観として定着しています。わが国の都道府県別の幸福度を民間調査でみると、大分県をはじめ九州・沖縄が上位を占めていますが、これをさらに高めるうえで、大分に住むさまざまな世代・背景の人々が、安心して楽しく集える場づくりがたいせつです。

都道府県別幸福度ランキング

順位	都道府県	幸福度
1	沖縄県	74.1
2	宮崎県	72.5
3	鹿児島県	70.8
4	大分県	70.5
5	熊本県	69.8
...
15	福岡県	68.9
21	長崎県	67.9
26	佐賀県	67.4
...
42	東京都	65.3
43	青森県	65.1
44	新潟県	65.1
45	福島県	65.0
46	神奈川県	64.8
47	秋田県	63.9

クリエイティブは、人と地域のウェルビーイングを高める

ウェルビーイングの基礎知識

- ウェルビーイングの語源はイタリア語で幸せや福祉を表す「benessere(ベネッセレ)」で、16世紀頃から使い始められ、1946年にWHO(世界保健機関)憲章による健康の定義の中で用いられたことで世界に広まった
- SDGs(2015~2030年)の次の国連目標(beyond SDGs)では、ウェルビーイングがさらに重視されるといわれ、次はSWGs(Sustainable Well-being Goals)だという意見も
- わが国でも「経済財政運営と改革の基本方針(骨太方針)2025」で「国民一人一人にとって、Well-being(幸福度)の高い、豊かさ、安心・安全、自由、自分らしさを実感できる活力ある経済社会」の構築が掲げられている(骨太方針は2019年度以降、Well-beingに継続して言及)
- ヘドニア(快樂)／ユーダイモニア(人生の意義)
- 獲得的幸福(米国的)／協調的幸福(日本的)
- 主観的幸福(個人が感じる認識・感覚)／客観的幸福(平均寿命、GDPなど統計データで把握)

文化芸術体験によるウェルビーイングの向上

- 京都大学 内田由紀子教授(人と社会の未来研究院 院長)は、2021年度に国(文化庁)とともに、文化に関する国民の意識や活動が、ウェルビーイングとどのように関わっているかを全国調査
- その結果、文化芸術の鑑賞や参加体験、地域の文化環境への満足度が、ウェルビーイングを高めていることを立証
- この関連性は、年齢や性別、都市サイズや年収などを統制しても残るものであり、文化芸術に触れることが、人々の生きがいやつながりと一定の関係があることが見いだされた

クリエイティブは、人と地域のウェルビーイングを高める

直島という「場」のウェルビーイング研究

- 瀬戸内海に浮かぶ直島(香川県直島町)は、豊かな自然の中にアートが点在する「現代アートの聖地」として知られ、国内外から多くの観光客が訪れる
- 京都大学 内田教授は「ベネッセ ウェルビーイングLab」(2022年設立)と共同で、2024年から直島でのウェルビーイング研究に取り組む
- 住民と来訪者がよいかたちで協力して、ともに文化芸術活動に参加することで、双方のウェルビーイングの循環が実現されるという視点(アートだけでなく、多様性や関係人口の議論とも通底)
- 直島住民への調査によれば、島民の幸福感や協調的幸福感(自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい気持ちでいると思う)は、全国平均を顕著に上回る結果に
- 他者とのつながりをポジティブに感じる機会がウェルビーイングに影響し、直島の場合、他者とのつながりを生み出す要素として、感動的な体験、体験の共有、活動への参画を挙げることができる



草間彌生「南瓜」(直島)



杉本博司「護王神社」(直島)



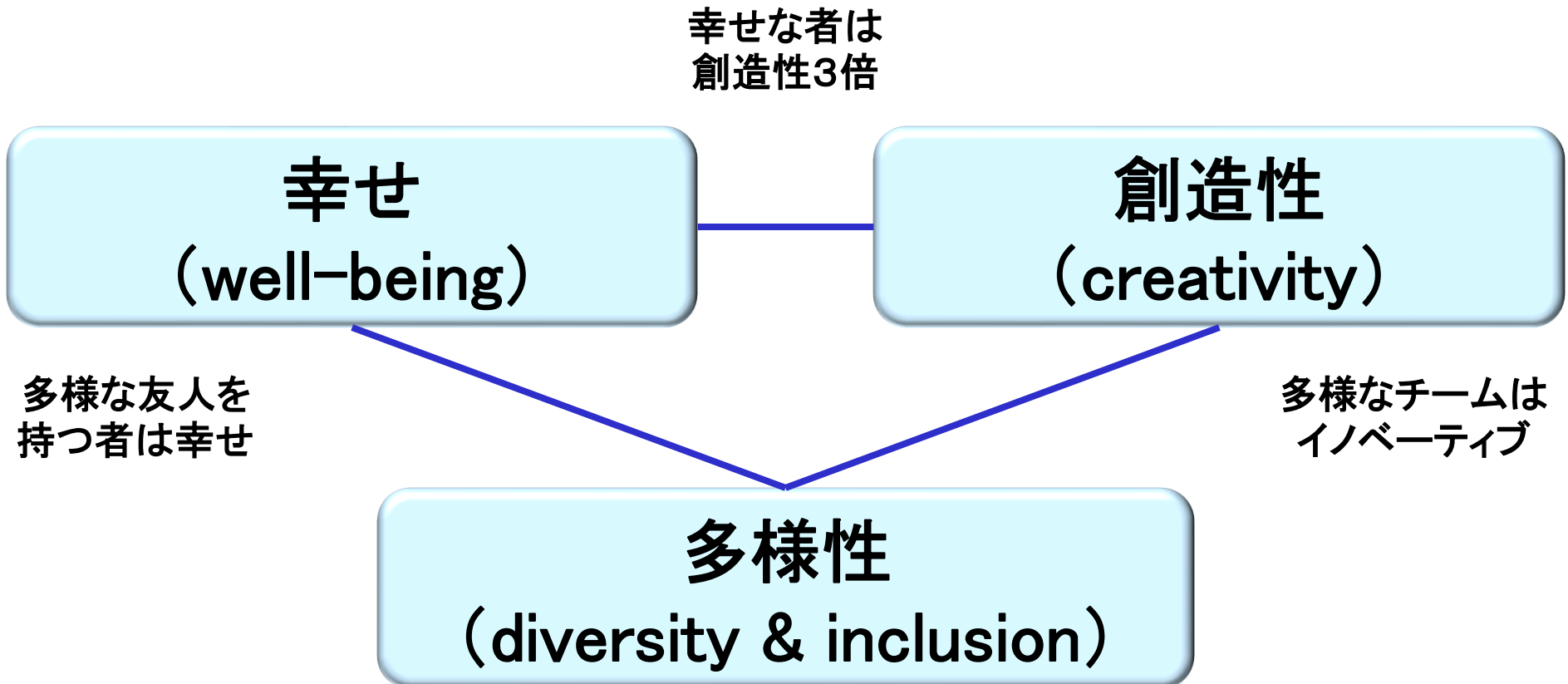
(出典)ベネッセ公式サイト



内田由紀子『日本人の幸せ—ウェルビーイングの国際比較』(中公新書)

クリエイティブは、人と地域のウェルビーイングを高める

幸せ (well-being) ・ 創造性とダイバーシティ・インクルージョン



(出典) 前野隆司・前野マドカ『ウェルビーイング』(日経文庫)